

「野鳥園臨港緑地干潟・湿地環境保全事業」平成 29 年度事業計画書

1 事業実施スケジュール

実施事業	平成 29 年 (2017 年)												平成 30 年 (2018 年)			計
	4 月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
(1) 干潟・湿地の保全																
環境調査																
① 鳥類調査	4	4			4	4	2			1	1	1	2	23		
② 底生生物調査				1								1		2		
③ 干潟現況調査				1								1		2		
④ 湿地再生プロジェクト				1									1	2		
干潟・湿地の手入れ																
① 漂着ごみ回収除去			1					1						2		
② ヨシ刈り等				1									2	3		
③ 順応的管理			1							1				2		
④ 導水管の点検				1								1		2		
(2) 環境学習																
① 野鳥ガイド	4	5	1	1	4	5	5	3	2	2	2	2	2	36		
② 観察会・学習会	←	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	→		
(3) 広報、啓発等	←	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	→		
(4) 催事	←	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	→		
(5) 事業実施に向けての準備活動	←	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	→		

2 本年度の事業目標

(1) 渡り鳥が多く利用する野鳥園の存在を知ってもらうための環境学習を企画実施し、市民利用施設としての機能充実を図る。

① 野鳥ガイドによる来園者への対応を充実させる

野鳥ガイドを増員し、新人ガイドには OJT 研修を行う。現野鳥ガイドにはフォローアップ研修(年2回)を行う。野鳥ガイド増員に伴い、渡来鳥種や来園者が多い時期には野鳥ガイドを3名とし、来園者への対応を充実させる。

② 環境学習プログラムの企画と実施(前年の実施内容を踏まえたプログラムの改訂)

野鳥や干潟の生きもののことを学ぶプログラム、およびそれらの生息環境である湿地の手入れを体験的に学べるプログラムを実施し、野鳥園の湿地環境のことや様々な生きものつながりを理解してもらう。前年同様に、夜間の生きもの観察会を実施し、様々な生きものの知られざる姿を楽しむプログラムも継続する。

さらに、近隣の学校の学生や教員を対象とした環境学習プログラムを企画し、干潟および渡り鳥のことを学べる環境教育施設として、学校の利用を促進する。

(2) 鳥類とくにシギ・チドリ類(繁殖地へ北上する春(3~5月)と繁殖地から南下する秋(8~10月)に野鳥園に渡来)とその餌となる干潟の生き物が生活しやすい環境を保全するために、生き物の視点から湿地の手入れと順応的管理を行う。

① 鳥類調査及び底生生物調査結果から、シギ・チドリ類の種ごとの食性、生態、利用頻度の高い干潟エリアを把握し、手入れすべき対策を講じる。

- ② 野鳥園に渡来する小型のシギ・チドリ類の休み場や餌場をつくることによって、多様な環境を再創造する（例：カキ山、筏の休み場、広がったカキ礁の除去、海藻を付着させる岩場、落ち葉の投入、干潟表層の泥分流出防止策、砂質化した環境の改善など）。
- ③ 「湿地再生プロジェクトチーム」において調査結果に基づく現状と課題、および課題解決に関する意見交換を行う。対策については試行的に実施する。

3 事業実施計画

(1) 干潟・湿地の保全

【環境調査】

① 鳥類調査

(実施時期) 2017年4月～2018年3月(計23回)

(調査方法) 展望塔と北観察所を拠点に1日3回の調査を行い、個体数の変化、種別最大渡来数、干潟・湿地の利用状況、採食行動などを調査シートに記録する。

(調査要員) 1～2名

(その他) 大阪府一斉ガンカモ調査(1月)、環境省調査(モニタリングサイト1000シギチドリ類調査)への情報提供

② 底生生物調査

(実施時期) 2017年7月および2018年2月(2回)

(調査方法) 底生生物の生息分布状況を調査し、必要に応じて採取標本を同定する。

(調査要員) 2名以上

③ 干潟現況調査

(実施時期) 底生生物調査時(鳥類調査時には干出状況を記録)

(調査方法) 底質(固さ、酸化還元状態、表面の有機物堆積層の状況)、水の流れ(滞筋の状況等)、干出状況(地盤沈下の状況)、塩分の測定などから干潟の現況を調べる。

(調査要員) 2名以上

④ 湿地再生プロジェクトチームにおける湿地環境改善策の打合せまたは協議

(実施時期) 年1～2回(野鳥園で実施)

(実施内容) 緑地部分で採取した落ち葉の投入による湿地の環境改善策を検討する。

(目標) 最終的には、湿地再生プロジェクトチームの構成員だけでなく、市民が参加できる手入れを行うことで、渡り鳥とくにシギ・チドリ類にとって野鳥園の湿地の大切さを身近に感じてもらうとともに、将来にわたって市民と共に野鳥園の湿地を育てることにつなげたい。

(実施要員) 2名以上

【干潟・湿地の手入れ】

① 漂着ゴミの回収と除去作業

(実施時期) 6月、11月、およびヨシ刈り時

(実施方法) 野鳥への影響が少ない時期に行政や市民と協働で実施する。昨年に引き続いて、企業のCSR(ボランティア約100~200人)の取り組みと連携する。

(実施要員) 3~5名

② 除草(ヨシ刈り等)

(実施時期) 随時(春と秋の渡り時期に備えて実施)

(実施方法) 展望塔から干潟の鳥を観察しやすいように、シギ・チドリ類の渡来時期の前に、湿地の生きものの生息環境に配慮しながらヨシ刈りを実施する。

(実施要員) 2~4名

③ 順応的管理

(実施時期) 渡り鳥の渡来時期以外(6~7月、1~3月)に随時実施

(実施方法) 環境調査結果に基づき、シギ・チドリ類の休息場と餌場を確保するための対策を実施する。とくに、シギ・チドリ類が餌を取りやすい環境をつくるため、北池の干潟表面を覆うカキ礁部分の手入れする作業を近郊中学校や高校の学生、市民とともに実施する。

(実施要員) 5名以上

④ 導水管の点検

(実施時期) 干潟現況調査時(2回)

(実施方法) 北池の西端の導水管からの海水の出入りを目視で点検する。

(実施要員) 2名以上

(2) 環境学習

① 野鳥ガイド

(実施時期) 原則として日曜と祝日の10時~15時(昼休憩1時間)に実施(年36回)。

(実施方法) 20倍以上の観察器具(望遠鏡)を使用し、野鳥園の展望塔から見える野鳥を来園者や団体に説明する。必要に応じて北観察所も利用する。

(実施要員) 2名以上

② 野鳥の観察会および環境学習会

ア 野鳥の観察会

(実施内容) 春(5月)と秋(9~10月)の渡り鳥の渡来時期に実施する。

(実施時期) 5月に1回、9または10月に1回

(実施要員) 参加者数により可変(4名以上)

イ 夏の夜のアカテガニ観察会

(実施内容) 夏の大潮の夜、園内の林から池に仔を放つためにやってくるアカテガニの観察を行う。(対象:市民、大阪市内の教員・学生など)

(実施時期) 8月

(実施要員) 4名

ウ 冬の夜のカモ類観察会の実施

(実施内容) 日没後(18:00~19:00)に、園内の池に帰ってくるカモ類の観察を行うと同時に、冬の星座の観察会を実施する。

(実施時期) 2018年1月

(実施要員) 4名

エ 干潟の生きもの観察会

(実施内容) カニ類、ヨコエビ類、貝類などの干潟の生きもの観察を行う。

(実施時期) 6月~7月

(実施要員) 4名

オ カキ礁の手入れ場所の生きもの観察と鳥類利用状況の観察会

(実施内容) 7月に実施したカキ礁の手入れ後の状況を観察する(海遊館、大阪府立市岡高校との連携の環境学習として)。

(実施時期) 8月

(実施要員) 3名以上

カ 野鳥の会大阪支部の定例探鳥会との連携

(実施内容) 日本野鳥の会大阪支部の南港野鳥園定例探鳥会のサポートを行う。

(実施時期) 毎月第4日曜日

(実施要員) 2名以上

キ 勉強会(野鳥および湿地の生きもの生活がテーマ)

(実施内容) 対象者の範囲を広げたテーマでの勉強会。野鳥ガイドのフォローアップ研修や新規ガイド養成も兼ねた内容とする。

(実施時期) 年2回以上

(実施要員) 3名以上

ク 大阪自然環境保全協会との連携の野鳥講座

(実施内容) 「自然環境市民大学」の野鳥講座を、一般市民も対象に南港野鳥園の歴史や野鳥の生態及び解剖学的特徴などをテーマに勉強する。

(実施時期) 2017年8月26日(土)

(実施要員) 3名

ケ 調査協力(大阪湾生きもの一斉調査)

(実施内容) 大阪湾環境再生連絡会が主催する大阪湾生き物一斉調査に協力し、テーマに沿った干潟の生きものを調査する。

(実施時期) 6月

(実施要員) 1名

(3) 広報、啓発等

- ① 野鳥園のホームページや SNS による広報・啓発
 - ・ 最新の野鳥飛来状況
 - ・ 野鳥ガイド実施日の告知
 - ・ 各種観察会や勉強会の開催日や申し込み方法の告知
 - ・ 環境保全のための作業日の告知とその報告
 - ・ 主にブログからトピック情報を配信（野鳥、園内の昆虫・植物、観察グッズなど）
- ② 展望塔内の展示スペースを活用した来園者への広報・啓発
 - ・ 野鳥園の湿地や林を利用する野鳥、野鳥園の干潟・湿地の環境、干潟の生きもの、野鳥園の歴史などをわかりやすく知ることができる掲示物を作成する。
 - ・ 野鳥ガイド実施日／観察会の実施日の展望塔の白板への記載（毎月）
 - ・ 展望塔の机に、季節に応じた野鳥識別ガイドを掲示し、机上には野鳥園でみられる野鳥の下敷きを置く。
- ③ 野鳥園だより（春、夏、秋、冬に発行）の配布（展望塔への掲示も行う）
 - ・ 野鳥ガイドの日程、各種観察会の開催日と内容、これから観察される野鳥などの情報を記載した「野鳥園だより」を季節ごとに作成し、野鳥ガイドからの手渡しと各種観察会実施時や希望者に配布する。これは、来園者と直接接する機会をいかして、野鳥園へのリピーターを増やす方法として実施する。
- ④ 野鳥園のパンフレットを新たに作成する（判りやすい内容のものを企画作成）

(4) トータルコーディネーター

トータルコーディネーターは、事業全体を通して野鳥園の機能と役割が発揮でき、干潟・湿地環境の保全ができるように、下記業務を実施する。

- ① 設計業務

各事業（環境調査、干潟・湿地の清掃と除草（ヨシ刈り）、環境学習、および広報・啓発事業）について、企画立案と事業内容の設計を行い、適切な人材を配置する。湿地環境保全については、環境調査結果に基づく湿地の順応的管理（手入れ方法）を立案し設計する。また、これら事業の実施結果から、今後の改善すべき設計を検討する。
- ② 調整系業務

大阪市との月 1 回の定例会議での報告と協議、植栽や除草に関する現場立会いや意見伝達、大阪市の職員対象の勉強会、湿地再生プロジェクトチームでの協議などを行う。
- ③ 総括系業務

事業計画書、全体事業計画書、および事業報告書の作成、ならびにアドバイザーボードでの報告を行う。

(5) 教員と学生対象の環境学習プログラムの準備活動

- ・ 干潟の生き物のつながりを言葉でなく体験学習できる場として学校の環境教育に活用

してもらうため、地元住之江区の学校を中心として呼びかける。

- ・ 大阪市立築港中学校および海遊館とは連携を続けながら干潟での環境学習プログラムを企画し、その成果を発表する機会を設ける。今年度は、湿地の手入れ作業（拡大したカキ礁の部分の手入れ作業）を行い、1ヵ月後にその場所の生きものや鳥類利用の状況を観察調査するというプログラムを実施する。

(6) NPO 法人南港ウェットランドグループと大阪市建設局の定例会議（年6回以上）

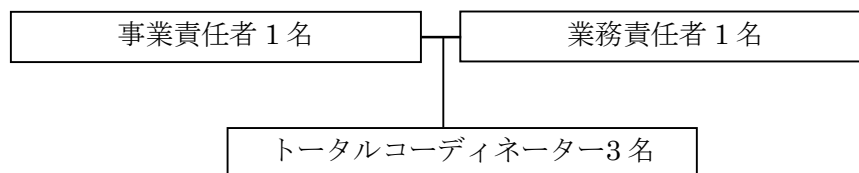
- ・ 事業報告と今後の事業予定の報告。
- ・ 業者に業務委託されている植栽管理や除草などの予定などの確認。
- ・ 協働事業で行う内容とその進め方についての検討。
- ・ 今後の課題などの協議。

4 事業実施体制

(1) 要員配置

本事業を実施するにあたり、事業責任者 1 名、業務責任者（事務担当者）1 名を配置し、各事業実施には次のとおり要員を配置する。

要員配置にあたっては、関係団体等と連携し要員確保のうえ配置する。



実施事業	実施要員	備考
(環境調査)		
①鳥類調査	1～2 名	
②底生生物調査	2 名以上	
③干潟現況調査	2 名以上	
④導水管の点検	2 名以上	
⑤湿地の手入れ（順応的管理）	5 名以上	
(干潟・湿地の清掃及び除草)		
①漂着ごみの回収と除去作業	3 名以上	CSR を活用 (ボランティア約 100 人)
②ヨシ刈り等除草	2 名以上	
(環境学習)		
①野鳥ガイド	2 名以上	原則として祝日と日曜日
②野鳥の観察会および環境学習会	2 名以上	各種観察会および日本野鳥の会大阪支部等他団体との連携観察会
(その他催事)	適宜	
(広報、啓発等)	適宜	
(事業実施に向けての準備活動)	4 名	行政と連携

(2) 関係団体 等

- ・ 日本野鳥の会大阪支部
- ・ 日本野鳥の会ひょうご
- ・ NPO 法人日本バードレスキュー協会
- ・ (公社) 大阪自然環境保全協会

以上